



題字 このひと言に愛をこめて 揮毫 東温市教育会OB 高須賀富美恵 解説は3面



発行所 (公財)愛媛県教育会 〒790-8545 松山市祝谷町1丁目5-33 エスポワール愛媛文教会館内 電話 (089)945-8644 F A X (089)945-1459 E-mail info@chime-kyouikukai.jp

- (2) 学校紹介 松山市立日浦中学校
(3) ふるさとに生きる
(4) (5) 旅・たび
(6) (7) 日連教富山大会印象記
(8) ふるさとスケッチス
ローカルトピックス

一隅を照らすもの

「小さな親切」運動に思う



元愛媛県小中学校長会会長 田中 耕太郎

「小さな親切」運動は、半世紀にわたる活動実績で知られていますが、そもそもその起源は、昭和三十八年東京大学の卒業式において、茅誠司学長が「諸君は、小さな親切の芽となり、それを実践して日本中を親切で埋めて欲しい。」と告示されたのが発端と聞いております。

茅学長の告示の真意は、これからの日本を支えるべき若きエリートたちを社会に送り出すにあたり、先進国にふさわしい人づくりの先達となることを切望されたことと思われ、そのお気持ちに当時の人々に多大の共感をもって受けとめられたのではないでしょう。

本県でも三十三年前に「小さな親切」運動愛媛県本部が設けられました。数々の運動の中でもとりわけ中心となる活動は、「小さな親切」実践者を可能な限り掘り起こすこと、その実態を東京の本部に推薦すること、そして、授与された実行章を本人に伝達することです。

茅学長は、この後にも、伝教大師最澄が「一隅を照らすものは、国の宝なり」と説かれたことに触れ、これこそ「小さな親切」運動の心そのものだとして述べられます。人々がお互いを思いやる心、人を、自然を、地域社会を慈しむ心、それこそが現代社会を支える原点であり、原動力であると

お考えになったのではないのでしょうか。

私が「小さな親切」運動のお手伝いをさせていただくようになって早くも十年になります。活動に関わる中で、わざわざ「小さな」を加えておられるのは、「さりげ無く」という言葉が隠されていて、日本人が長く大切にしていた「奥ゆかしさ」や「慎ましやか」ということ、ひいては教養を身につけ品格を高めることなど、深い思いが込められているのではないだろうかと思ふようになりました。

今後必要とされる限り、「いつでも、どこでも、誰にでも」できる「小さな親切」運動の心を忘れず、日々努力されている方々をご紹介するなど、私も微力ながらお手伝いをさせて頂こうと考えております。

一略 歴一

- (たなか こうたろう)
昭和43年 東京理科大学理学部卒業
平成10年 松山市立たちばな小学校長
平成12年 県教委義務教育課課長 補佐
平成13年 松山教育事務所長
平成15年 砥部町立砥部小学校校長
平成16年 愛媛県小中学校長会会長
平成17年 定年退職
(以後、25年まで社会教育推進員・理科支援員コーディネーターを務める)

聞 びょう 響

これまで二度サッカー日本代表の監督を務め、ワールドカップ出場へ導くなど、日本サッカー界を牽引してきた岡田武史

世界を相手に活躍していた彼が、二〇一四年一月に突然、四国地域リーグ「FC今治」のオーナーへの就任を発表し、大きなニュースになった。なぜ、そのような決断をしたのか。何を考え、未来に向けて何を掲げ、何をしようとしているのか。岡田氏は、インタビューに答えて「今治って言うそれほど大きすぎない街だからこそ、街に一体感が出てきた感じを今、手応えとしてつかんでいる」、「日本に本来あった、武道や禅の教えとして有名な『守・破・離』という考え。型を守り、型を破り、型を離れる」▼スポーツ (sport) の語源はDisport. [Dis]は接頭語で離れるという意味。[Port]は港、港を離れる。つまり、港の内から外へ出るという意味。秩序のある安寧な陸から自由な大海原へと、解放されること▼「進化しなくてもいい、でも、変化しないといけない。変化しないとどんどんダメになっていく。」とも言っている。今後の活躍に期待したい。

ひとこと

素敵なコアラ



愛媛県小中学校  
校長会副会長  
本田 郁代

一冊のスケッチブックと色鉛筆を出して、Please Draw a Kodaとオーストラリア人のノエルさんが言いました。いきなりの言葉に、私の中でイメージがなかなか浮かびません。とにかくコアラといえは、丸い顔と丸っこい眼。耳は、体の形は、などと考えながら、少し上手そうに見えるように立体的に色を付けてサインを入れました。

この夏、我が家でオーストラリア人二人がホームステイをしました。布団で寝たり、茶道を体験したり、また、日本食を満喫したりしました。日本の伝統文化を体験し、とても満足した様子でした。その中で一番印象に残ったのは、しまなみ海道で入った温泉だそうです。オーストラリア

アにはない初めての体験だったそうです。

さて、コアラを描いたスケッチブック。私が描き終えると、ノエルさんはゆっくりとそれまでに描かれているみんなのコアラを見せてくれたのです。ノエルさんは、今までに出会った様々な国の人たちのコアラを笑顔で見せてくれました。小さなもの、後姿のもの、木に登っているもの、そしてノエルさんへのメッセージも自国の言葉でたくさん書かれていました。ノエルさんは五十歳。自分の結婚式の日両親が描いたコアラもありました。もちろん奥様のものや子どもさんのものも。このように、コアラを描くという一つの共通のツールを通して人と人とが笑顔になり、コミュニケーションがとれることをノエルさんから教えてもらったように思います。

コアラから生まれた、ノエルさんを取り巻く素敵な人たちとの出会いは、私のこの夏の貴重な体験となりました。  
(新居浜市立金子小学校長)

学 校 紹 介

No.163

松山市立日浦中学校

一人ひとりが主人公

本校及び日浦小学校は、平成十五年度から校区の弾力化の特別措置として、市内全域から児童、生徒を受け入れはじめ、今年度で十三年目を迎えます。また、平成十九年度より本格的な小中一貫を目指した教育を進めて、今年度で九年目になります。

現在は、三学級、二十二名の生徒が本校に通っており、そのうち五名が日浦地区内の生徒です。他十七名の生徒は、スクールバス「ひめゆり号」に乗って登下校をしています。

本校の最大の特徴は、小中合同で行う様々な教育活動です。運動会をはじめ、連合音楽会、田植えや稲刈りなどの自然体験活動を、小中合同の縦割り班で行います。中学三年生をリーダーとした中学生が、小学生を温かく支えながら一緒に活動し、信頼されるお兄さん、お姉さんへと成長



していく姿は、いつ見ても感動します。

また、豊かな自然と地域の歴史ある産業を守り受け継いでいく活動として、日浦緑の少年団活動と、総合的な学習の時間の活動があります。総合的な学習の時間では、一年生が炭焼き、二年生がホタルの保護、三年生が日浦の町花であるヒメユリの保護を行い、それぞれの活動を通して

ふるさと日浦に誇りを持ち、環境保護に対する意識を高めています。毎年十月には、松山市の大街道で行われる「みんなの生活展」で、市民の方々に、日浦ならではの学習の成果と環境保護の大切さを伝えています。これらの少年団活動とつながった取組が認められ、平成二十四年度には、環境大臣より地域環境美化功労者表彰を受けました。

部活動は男女ソフトテニス部のみですが、先輩から引き継いできた伝統を守り、女子ペアが県総体出場を果たすなど、精いっぱい活動に取り組んでいます。

このように、本校の生徒は地域や保護者の方々から温かく支えられて成長し、やがて日浦コミュニティの一員となっていくきます。これからも、豊かな自然の中で学び、つなぎつなげて、一人ひとりが主人公になれる学校を目指して頑張っていきます。

(教頭 篠崎 真宏)

題字に寄せて

このひと言に  
愛をこめて



東温市教育会  
OB  
高須賀富美恵

これは、私の師、大分県出身の近代詩書家西村春斎先生の詩文書の冒頭のことばです。

「この ひと言に  
愛を こめて」

たった ひと言が  
あなたを 輝かせた

たった ひと言は  
人を 救う

たった ひと言で  
本当の 感謝がわかる

たった ひと言を  
言ってはならない

ときがある」

と続きます。ことば社会の中で生かされている私たち。ことばの持つ力は地球よりも宇宙よりも重い。愛あることばをつかいきる。いつまでも、いつまでも、心して…

ふるさとに生きる

夢を追って



山本 周三先生

今回は、小学校時代の夢を退職後に見事に実現されていた山本周三先生をお伺いしました。多彩な活動の中から次の三点をご紹介します。

一 思い出に残る活動

先生は、退職後「青少年健全育成」の活動を心がけ、公民館長として地域の子どもたちとの触れ合いを大切にされました。今もそのときの映像が浮かんでくるようです。また、ハートなんでも相談員として校区の子どもたちの様々な悩みの解決に尽力されました。さらに、平成十七年に「楽楽クラブ」を結成され、昔の遊びを子どもたちに教えています。小学校等から要請を受けて、年間十校程度訪問されて

訪問者

越智 幸雄

(今治市立富田小学校教頭)

いるそうです。教育会の使命は「学校支援」と考えておられ、頭が下がりました。

二 海外旅行のエネルギー源

先生は、多くの旅行をされています。中には、年四回も海外旅行もあります。旅行の原点は、何と小学校の教科書に出ていた「礼文島」の記述だそうです。夢の実現の始まりです。元気の秘訣をお聞きすると、体を動かすことだとお答えになりました。野菜づくり、写真撮影、手紙を書くこと、野球観戦、観劇など多趣味を生かし、日々奮闘されていく姿が目には浮かびます。多忙な現職時代にも、これといった病気もなく乗り越えられたわけが分かる気がし

No. 83

ます。しかし、何といっても、現役時代の激務と、八年間十三回の海外旅行(奥様同伴)を支えたものは夫婦愛だそうですね。納得いたしました。

今日用があり、今日行く所がある。生き方の指針を教わりました。

三 今後目指しているもの

先生が、今後さらに目指していることの一つは「野球観戦」だそうです。高校野球なら「今西」の応援、今年も甲子園に行かれたそうです。プロ野球なら「巨人」戦だそうです。年間スケジュールを入手して観戦計画を立てるそうです。そして、目指すのもう一つは「健康」だそうです。「キョウヨウ」「キョウイク」(天声人語…多湖輝)を目標にされているそうです。

四 おわりに  
インタビュを終えて、七十四歳には見えない目の輝きを感じました。そして、「ストレスを溜めない生き方を」と私たち後輩にエールを送ってくださいました。

ますますお元気で、夢を追いかけていただきたいと思います。

山本 周三先生 (74歳)  
(今治市四村在住)



楽楽倶楽部

いよつ高島屋 ロースカードご入会のおすすめ 学校生協

商品(特別奉仕品・生鮮食品等の割引対象商品を除く)を5%引きで購入いただけます。

売場奉仕品、優待会、カタログ、通販販売の商品は2%引きのお支払(一般カードは割引なし)。

お中元・お歳暮の期間中、「外商常得意様承りコーナー」にて推奨品に限り推奨価格(10%引き)で購入できます。

お問い合わせは

愛媛県学校生活協同組合連合会  
電話 (089) 925-0555

または 郡市学校生活協同組合

# 特集 旅・たび

## 湯快・爽快ツアー IN九州



東中市論 加藤 弘美  
新居教 加藤

予想外の波の高さも何のその！「具が大きい」お館を完食し、原尻の滝ではマイナスイオンをたっぷり浴びて、我が新居教研親睦ツアーは元気にスタートしました。最初の感動はタデワラ湿原の爽やかさです。

○草そよぐ

緑の海にヒゴタイの

紫目に沁むトンボも憩ふ

黒川温泉の夜はカラオケも二次会もあります。心おきなく心身の洗濯に集中できました！もれ無く情報交換と云う名のおしゃべり付きです。

○混浴の

スリルに勝る姫？四人

朝の川風呂瀬音も清しき

二日目の湯布院は観光客でごったがえしていました。運転手さんの超絶技巧で、無事

駐車場に着いた途端、我々日本人バスが少数派であることにびっくり！

○黒二点

金鱗湖畔の立ち寄り湯

温泉三昧貫きたる旅

いよいよ九州の地を離れる時、朗らかなガイドさんに通

る筋金に触発されました。

○車中にて挨拶済ますも

船内にバス消ゆるまで

手を振るガイド

この心遣いは、プロ意識に

徹しているからこそです。

団長の森校長先生は、終始

カメラ小僧も務めてください

ました。美しい自然の恵みと

人情に癒された極上の二日間

の旅でした。この幸せを御福

分けできる二学期にしたいと

気持ち新たにしているところ

です。

来年も行かなくちゃ！

## 「旅・たび」 なのかな？

西条市東予西中

校長 岡田 光

普通の旅ではない。オリン

ピック・世界選手権（I O

C）料金はヤケ取り。入場券

一枚四九、五〇〇円也。最初

の夫婦での海外旅行、それが

アテネオリンピックだった。

一泊一〇万円也のぼろっつい

ホテルでがっかりと思いき

や、窓を開けてズドンと感

激。目の前がパルテノン神

殿。ブラボー。でも、予選落

ち。そんな感じで三回のオリ

ンピックと五回の世界選手権

を旅した。

最初のアテネは「オリン

ピックに行けるなんてなんと

幸せなことだ、しかも、自分

がかかわった選手が参加し

て」という思いだった。しか

し、長時間の飛行機、高額な

お金、そして予選落ちという

結果に、「次は行かないぞ」っ

て思っていたのに…。行かな

い予定でいた二〇〇九年のベ

ルリン世界選手権大会直前に

行きが決定。現地で、しかも生

で競技を見ることができて、

本当に感激を通り越した感激

に絶叫しま

くりだった。

そして突然、

その時が我

らの目の前

に出現した。

日本人とし

て初めてと

なる快拳達

成の瞬間である。「男子やり

投げ」で銅メダルを獲得。表

彰式の後に、銅メダルを持

せてもらった瞬間、また涙。

その瞬間を見るために、監

督や選手のサポートをするた

めとはいえ、高級車一台分は

使ったような気がする。それ

でも、「こんな経験はお金を

出してでも普通はできない

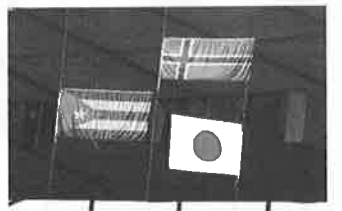
よ。」と送り出してくれた妻

に心からの感謝の旅？でも

あった。でも、リオは行かな

い。いや、監督が行くと言え

ばついていくか、やっぱり！



## マツダスタジアム への旅



小坂本小 潤  
松山市論 教 潤  
續田

私は三十数年来のカープ

ファンで、カープの本拠地が旧広島市民球場の時代から観戦に通ってきた。結婚後も、我が家のここ数年の家族旅行の行き先は、専ら広島方面である。今回は、二〇〇九年に開場した新球場「マツダスタジアム」について紹介したい。

松山からしまなみ街道経由で三〜四時間あれば、車で直接球場まで行くことができ。隣接の「コストコ」の屋上駐車場を確保できれば、駐車場から直接球場の外野席コンコースへ入場できる。小さい子供連れには、着替えなど必要な物を車に取りに戻りたくなったとき、座席と駐車場の行き来が楽で、大変便利である。

内・外野席は隣席との間隔が広くて観戦しやすい。また、「寝ソベリア」「砂かぶりシート」「びっくりテラス」などのユニークな座席が用意されており、シートに寝転んでの観戦やバーベキューを楽しむながらの観戦も可能である。一番のお勧めは、外野席上段の「パフォーマンスシート」である。このエリアでは、私設応援団の指揮に合わせ、**「スクワット応援」**を本格的に楽しめる。カープの得

点時には、周囲のファンとハ  
イタッチで一緒に盛り上が  
り、一体感を味わうことがで  
きる。

近年、「カープ女子」が流  
行語になったように観客数も  
増え、特に今年は、チケット  
が手に入りにくい状況であつ  
た。来年も観戦の機会を作り、  
思いっ切り大声を出してカー  
プを応援することを楽しみに  
して、日々の仕事を頑張りに  
い。

### 驚きの連続

忘れられない初めての  
海外旅行



宇和島教育会  
OB  
井上 教

昭和六十一年十月六日から  
二十一日まで文部省教員海外  
派遣ヨーロッパ教育事情視察  
団愛媛県第三八一団としてス

ペイン、スイス、フランスを  
訪問した。二十九年前のこと  
である。

初めて海外の大地を踏んだ  
のは、スペインのマドリッド  
国際空港。入国手続きのため  
出口に並んだ。そこには日本  
では見られない光景があつ  
た。なんと機関銃を持った二  
人の兵士が立っているではな  
いか。写真係の私は早速カメ  
ラを向けた。途端に私に向  
かってNOのゼスチャー。怖  
かった。最初に驚いたことで  
ある。

二つ目の驚きは、トレド市  
の高等学校でのことである。  
廊下に水を張ったバケツが  
所々に置いてあつた。校長先  
生に「なぜ廊下にバケツを置  
いているのか」と質問した。  
「生徒がタバコを吸うために  
灰皿代わりにしている」との  
こと。学校は生徒の喫煙を容  
認していたのである。  
三つ目は、スイスのシオン  
市の高等学校を視察したとき

### 祝 受章おめでとつございます

◇瑞宝双光章 (高齢者叙勲)

薬師神健治郎様 88歳 元吉田町立喜佐方小学校校長  
武市 強様 88歳 元久万町立直瀬小学校校長

宇和島市  
久万高原町

のことである。私にはスイス  
は世界で最も豊かで平和な国  
という思いがあつた。そこで

「今、この学校で一番心配な  
ことは何か」と聞いた。女性校  
長は「コカインなど危険薬物  
を手にする生徒が増えつつあ  
る。十年ほど前にはなかった  
ことだ。おそらく日本も十年  
後には流行るのではないか」  
と顔を曇らせて話したことを  
今も覚えている。高校生が薬  
物を乱用するなど信じられな  
かった時代である。彼女の予  
言通りわが国でも十年以上前  
から青少年の薬物乱用が大き  
な社会問題となつている。  
いつまでも忘れられない海  
外旅行の思い出である。

### 旅に好奇心と

愛をこめて



北宇和教育会  
OB  
松永 光雄

四十年前全国海外教育事情  
視察派遣団の通訳として機会  
を与えられ、初めて世界一周  
の旅をした。当時は文部省の  
担当者が直接面接し通訳とし  
ての適性を判断された。一室

数人ずつで順番に英語で質問  
が飛んでくる。「CE・シャ  
ル・ビ・フリー、和訳」(義  
教は自由です)。「シャルです  
よ。義教はこれ無償とする、  
でしょう。」と少し語気を強  
められた。一連の面接を通じ  
て、英語で情報を発信する際  
に何が大切かを思い知らされ  
た。私が英語教育に開眼した  
瞬間である。帰路、都心のデ  
パートの売店に、ちようど私  
の隣で商品を見ている人がい  
て見上げると、なんとあの有  
名なジョンレノン夫妻であ  
る。以後ますますビートルズ  
の音楽にのめり込むことと  
なつた。  
学校訪問時は、案内者の説  
明の一言一句に全神経を傾注  
し通訳した。相手方の英語に  
は個性がありそれに慣れるの  
が大変だつた。退職後は必ず  
家内と一緒に旅行をしてい  
る。  
連れ添って以来随分と苦勞  
をかけてきた。幸い健康に恵  
まれていて、家内への感謝と  
恩返し気持ちで旅に連れ出  
している。欧米、アジアなど  
を広く旅した。二人共通の趣  
味は写真と美術鑑賞なので、  
美術館巡り、雄大な景観、世  
界遺産、名作名曲の舞台等を

撮影するのは本当に楽しい。  
旅行後は訪れた国の歴史など  
をひもとく。機上の窓から天  
空を眺めると地球自転の不思  
議さがよく分かる。旅は好奇  
心をそそり人生を豊かにして  
くれる。これからも二人で旅  
を続けたい。



俳画・水墨画教室  
渡部 平人作

### ハウジング事業のご案内 学校生協

学校生協がハウジングメーカーと提携することによって、学  
校生協組合員のライフスタイルを応援させていただきます。  
新築・マンション・リフォーム等、11社のハウジングメーカーと  
提携しております。

詳しくはホームページをご覧ください。

愛媛県学校生協ホームページ  
<http://www.ehime-gakuseikyoku.jp/index.jsp>

お問い合わせは  
愛媛県学校生協同組合連合会  
電話 (089) 925-0555  
または 郡市学校生活協同組合

# 第67回日本連合教育会 研究会 富山大会 印象記

## ◇全体会 (富山大会での学び)



伊子教育会  
OB  
坪内 雅子

時速二百六十キロ、長短二十五ものトンネルを駆け抜けて日本列島を横断、憧れの北陸新幹線「かがやき」に揺られて二時間八分。八月二十日の富山は曇天で、出迎えてくれるはずの立山連峰は、うすぼんやりとしかその姿を見せられなかった。

日連教のこの大会は、昭和二十四年から途切れることなく開催されており、今回の第六十七回目の富山大会も千余名の参加者を得て盛大に執り行われた。愛媛県からは四十九名の参加となった。私もその中の一人として、歴史あるこの大会の雰囲気に入り、改めて教育会の在り方を考えることができた。

大会主題は、従来の主題に加えて、我が国の未来をたく

ましく切り拓いて欲しいとの願いを込めて「人間性豊かで創造性に富み、たくましく生き抜く日本人」と掲げていた。

記念講演では、富山県高志の国文学館館長の中西進氏が「ことばという美しき存在証明」と題し、美しく味わい深い言語の力で、私たちを限りなく不思議な世界へ誘ってくださった。美しいことばを正しくつかって存在証明をすることが、私たちの人格のパスポート、証明に繋がることだと教わった。最後に、中西進謹作、二十六世観世清河寿謹曲の小謡「日の本」を披露してくださった。中西氏の大好きなことばを散りばめた小謡は、御本人の存在証明そのものだと感じた。

アトラクションでは、越中五箇山民謡「こきりこや」麦屋節「等が披露され、富山の歴史と伝統の重みを痛感した。更に、若い後継者の確実な育成と力強さ、県民の誇り等も迫力をもって伝わってきた。

午後からは、第十分科会に参加した。学校・家庭・地域

社会の連携について徳島県と富山県の実践発表後、様々な校種や立場の参加者で構成されたグループ討議がなされた。それぞれの立場で、いかに主題に即した子どもたちを育成すればよいか真剣な討議がなされた。

様々に変貌するであろう富山に再び会いたいと心密かに願う実りの多い研修となった。

## ◇第三分科会 (学習指導)



小浜市立波止小学校  
校長 松本 厚美

第三分科会では、「共に学び合って人間関係づくりと確かな学力の定着の一体化を図る学習指導」を研究協議題として、三つの提案発表と協議が行われた。

桐生市教育会(群馬県)からは、「日常生活を見つめた文章を書くこと」で、古典に親しむ態度を育てる実践研究」をテーマに、桐生市立広沢中学校の取組が発表された。古典作品から取材・構成の仕方

を学ばせながら、日常生活を見つめた文章を書かせることで、テーマに迫ろうとしていた。生徒たちの「本気の学び」を創ろうとする新しい試みに大いに刺激を受けた。

香川県教育会からは、「主体的に学び、自分の思いや考えを伝え合う子どもの育成」をテーマに、綾川町立羽床小学校の取組が発表された。ノート指導を通して、授業での学びと家庭学習をリンクさせることで、子どもの学習意欲の向上と主体的に学び合う態度の育成が図られていた。結果的に、保護者の家庭学習への関心が高まり、家庭での子どもに対する働きかけが行われるようになったことが、本実践の大きな成果であると感じた。

富山県教育会では、「生徒を主体とした学力向上の取組」をテーマに、富山市立興南中学校の取組が発表された。学力向上委員会を設置し、教師・生徒が丸となった、学力向上を中核にした学校づくりの取組により、成果を上げていた。生徒のもてる力を信頼し、「共によい学校を創ろう」と生徒に呼び掛け

るところから取組がスタートした点が強く印象に残った。

最後に、富山大学人間発達科学部教授、松本謙一先生が指導助言をしてくださった。

「子ども同士の学び合い、高め合いのみならず、教師も子どもとともに高め合い、共に成長することを、一緒に楽しむといった温かい取組を、今後創ってほしい」という言葉で締めくくられた。

全国のそれぞれの地で、その地に根ざした学力向上に向けた取組が行われていることを実感することができた分科会であった。

## ◇第六分科会 (健康教育)



小淵市立瀬戸小学校  
教諭 吉見 泰子

富山県教育会から、県全体で行われている健康教育の発表があった。富山県では、全ての小学五・六年生を対象に、「健康づくりノート」を配布して、「ゲンキッズ作戦」を展開している。これは、児童が自分の生活を見直し、改

善に向けて目当てを立て、家庭と連携して健康づくりを継続的に行う取組である。実際に活用した学級担任は「はじめは『いじくらしい』(方言で、『面倒だ』の意)と思っ

たが、児童は大きく変化したが、養護教諭は「集計が簡単で、県平均との比較もできる。」と、誇らしく語った。

また、小中学校の校長会では、健康教育推進の在り方を研究しており、担当者を中心とした動きやすい組織体制が整備されていた。さらに、高等学校では、「イレブン・セブン作戦」(逆ではない)が実施されている。これは、午後十一時から午前七時まで、スマホ・ゲームをさわらない、パソコン・テレビに向かないという取組である。

生活習慣の確立は、学校種別に関わらず、日本全国共通の健康課題と言えよう。だが、児童生徒や学校の実態は様々で、包括的な健康教育を実践したいと思っても困難な場合がある。だからこそ、このような取組のシステム化は、多くの児童生徒への、健康基盤づくりの機会提供につながる

者や地域からの高い評価を得てもなお、児童生徒に焦点を当て、更なる改善を図って取り組んでいることにも、感動を覚えた。

帰省後、私にできることに思いをはせた。子供たちには、心身ともに健やかで、自他を大切にしながら幸せな人生を送ってほしい。そのため

に、困難な事にもよりよく対処しようとする素地を育みたい。効果的な健康教育を推進するために、養護教諭としての基本を身につけ、根拠に基づく発信に努めていこう、との思いを新たにしました。

◆第七分科会 (人権教育)



小井吉北市東温市教 八木 昌宏

第七分科会では、協議題を「互いの人権を尊重し合う心と態度を育てる人権教育」として、三つの提案を基に活発な研究協議が行われた。

提案の一本目は、我が愛媛を代表し今治市立日高小学校松下準市先生が発表された。

研究主題は、「互いの人権を尊重し、共に学び支え合う児童の育成」。先生方の日頃の熱心な取組の中で、生き生きと学び合い支え合う児童の様子

が手に取るように分かる見事な発表であった。日高小の「気付く心・伝え合う力」を育てるための取組が道徳・学活・集会、そして

国語・体育・理科など全ての教育活動の中で、軸がぶれることなく確かな取組になっていることに、後のグループ協議で賞賛の声があがった。中でも私は、松下先生の理科での創意工夫に、同じ理科教員として強い刺激を受けた。「創意工夫に終わりはしないのだ」ということを改めて教えてもらった。

ることなど、実践例を交え、強く訴えており、共感することができた。

三本目の富山県高岡市立高陵中学校は、「今、つなごう心と心」人権教育、絶えざる営みを未来へ」と題して、

人権モデル地域指定推進協力校として取り組んだことを教育活動の根幹としていること。その取組は指定を受けた平成六年に始まり、二十年間、今も脈々と受け継がれていること。そして、それが高陵中学校の文化となっていることが発表された。このよき文化の構築こそ人権教育の核であるのだと感じた。

また、富山県は、全国学力学習状況調査で毎年上位を占める県の一つである。この粘り強い取組で培われた人権感覚を下支えとして、学力が育まれているのだと感じた。分科会が終了し会場を後にするとき、私は、発表を終えた松下先生と固く両手で握手を交わしていた。この握手をするために、私は、富山に行つたのだと、今も思っている。

◆青年教師の会に参加して



中山南第二分科会 松山市教 吉金 絵美

富山県は大変温かい場所だった。そう思えたのは、すてきなおもてなしと出会いがあったからだ。

この夏私は、青年教師の会に参加した。会に参加していた愛媛県外の先生方との交流は、私にとって新鮮な刺激となった。この会では、富山県をはじめとする県外の先生方とグループ協議などを行つた。その話合いの中で、各県が独自に行っている教育活動や、年代別の先生方が学級や学校でしている実践について新たに知った。今回学んだことは、二期から早速生かしていきたいと思いますと同時に、学級の生徒に早く会いたいと思つた。一方で、都道府県が違つても、教育で大切にすることは同じであるということ

ふるさとスケッチ

No.383

命はつながっている



西予市宇和中  
教諭 加藤 只則

私たちの命は祖父母から両親を経て、私たちの体に受け継がれてきたものです。そして、子どもや孫たちへと、命(遺伝子)がバトンタッチされていきます。

だから、私の『心のふるさと』は、両親であり、私の子どもにとっては、「私と妻」ではないでしょうか。

十代さかのほれば、千二十四人もたくさんの先祖が力を貸してくれて、今の自分が存在しています。

そんな風に考えると命はつながっているのです。



妻の肖像

ローカルトピックス

映画「陽光桜」

今、開花

東温市の美しい山間部を舞台に映画「陽光桜YOKO THE CHERRY BLOSSOM」の物語は始まります。

物語の軸になるのは、ひたすら新しい桜の品種改良に挑む父「高岡正明」(笹野高史)と、その生き様に反目し、やがて理解していく息子(の場浩司)の姿。

高岡正明氏は、温泉郡三内村(現在の東温市)で生まれ、三内東谷尋常高等小学校(現在の東温市立東谷小学校)に併設された青年学校で教員を務めました。戦後、戦死した教え子たちの鎮魂と、世界平和を願って新しい桜を自分の手で作ろうと誓います。不屈の精神で、試行錯誤の末に誕生したのが「陽光桜」。命の尊さを桜の木に託した、元教員の生き様を描くヒューマンドラマとも言える作品です。

お知らせ

◆短歌・川柳・自由律俳句募集中

三月下旬から始まった映画のロケ。東温市の棚田や滝などが満開の桜とともに圧倒的な映像美で描かれています。本作は、十一月から全国公開の予定です。東温市の風景と、愛媛の方言が、見る人を温かく包みこんでくれることでしょう。

六月号でお知らせしたとおり短歌・川柳・自由律俳句を募集しています。締切は平成二十八年一月二十六日(火)までです。応募作品は文教月報三月号に掲載する予定です。奮って御応募ください。(詳細は六月号及びホームページ参照)

◆寄贈図書紹介

- ◆この度、次の図書をご寄贈いただきました。(寄贈者)
- ◆私の主張―夢のある未来― (横田宏幸)
- ◆閉校記念誌―柳谷中学校― (柳谷中学校)
- ◆昭和天皇実録一巻〜四巻 (宮内庁)
- ◆歌集いのち (林好昭)
- ◆源氏物語―現代語訳― 一巻〜五巻 (藤岡由紀子)



映画の撮影風景 (東谷小学校にて)

文教月報編集協力委員  
東温市重信中学校教諭 川崎 裕美

ご冥福をお祈りします

酒本 卓月様	86歳	八幡浜市古町一四一八
野中 健様	77歳	松山市桑原六丁目八二四
高須賀 都様	103歳	東温市田窪二六一
畑野 久様	90歳	西条市明屋敷五六
検垣 艶子様	88歳	今治市吉海町福田三七七
猪上 達勇様	81歳	松山市居相町一三三

ぶんきょうの 忘年会・新年会

メニューもますます充実  
ご予約は、皆様の会館

エスポワール文教会館 ☎(089)945-8644  
fax(089)932-0380

足跡をつづる、私を記す、形に残す。  
あなたが主人公のドラマを未来に伝えませんか。

本づくり応援

プロのスタッフが校正作業をサポートします!  
プロのデザイナーがデザイン力を発揮します!

●規格・裁丁のご提案 ●編集方針のご提案 ●レイアウト見本のご提示  
●原稿作りのアドバイス ●予算のお見積り ―その他、ご相談承ります。―

ご注文・お問い合わせは 印刷営業部 TEL (089)945-0112 fax (089)947-6073

SEKI セキ株式会社

松山本社/松山南浦野7丁目1 TEL(089)945-0111  
東京本社/東京都豊島区民権3丁目2番 TEL(03)3577-1230  
支店/久米 高松 徳島用/各店舗 高知 http://www.seki.co.jp

自分史  
作品集  
研究報告  
記念誌  
業績集  
旬集  
エッセイ集  
写真集